

分 か る と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

歴史

地理

お 題

戦いを長引かせた 「武士の特徴」とは？

(東京大学 2003年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

次の文章を読んで、南北朝の内乱の時の武士の特徴を説明しなさい。

(1) 南北朝の内乱の時のこと、ある武士は、四男にあてて次のような手紙を書き、自分の領地を譲った。

長男は男の子を残さないまま亡くなり、次男は親に背いて敵方に加わり、三男はどちらにもつかずに引きこもってしまった。四男のお前だけは味方として活躍しているので、領地を譲ることにした。

(2) ある合戦が行われた際、大将は敵陣にいる小さな武士団を見ながら、次のように話して味方を励ましたという。

あの者どもは、今は敵だが、私たちの戦いぶりによっては味方に加わってくれるだろう。



イラスト：瑞木匠

武士の決断

土地があれば、米や野菜などの食料や、売ればお金にもなる作物が作れるからです。麻など、衣服の原料も畑で栽培されます。武士は当初、生活の糧となる大切な土地を、父から子へと、血のつながった親族の間で、受け継いでいきました。兄弟も全員がそれぞれ親の土地を受け継ぐことができましたので、家のリーダーである父を中心とした親族の結束は、大変強いものでした。

生き残っていくために……

しかし、土地の広さには限りがありますので、子孫にどんどん分け与えていくと、1人が受け継ぐことのできる土地はどんどん小さくなっていき、それだけでは生活ができなくなっていきます。兄弟全員に土地を分けて、一族全員共倒れになるよりは……。ということで(1)の文章のように、兄弟のうちの頼りになる1人にのみ土地を与えるようなことも起きました。

また、子のほうも、父から受け継ぐ土地に頼るよりも、ほかの力のある武士を頼り、その家臣となって生活するようになっていきました。そのような中で起きた南北朝の内乱では、家のリーダーに忠誠を誓うというよりも、(2)の文章のように、より強そうな者に味方しようとする武士が多くなりました。このように、情勢の変化に応じて味方する側をころころ変える武士が多かったことが、南北朝の内乱が長引いた理由の一つと考えられているのです。

【Z会・河原井彩】

！今回の教訓

当時の武士は生きていくためにしかたがありませんでしたが、みなさんは家族や親戚を大切にしてください。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は小学生向けデジタル通信教育「デジタルZ」を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。

「南北朝の内乱」とは、14世紀の半ばから末にかけて、60年もの間にわたって日本を二分した大きな戦いのことです。決着までに60年もかかった戦いというのはなかなか聞きませんよね。この戦いが、60年という長い期間続いた背景には、この問題で聞かれている「当時の武士の特徴」が関係していました。

武士の生きる糧は土地

当時の武士にとっての大きな財産は土地でした。